



発達障害の方への キャリア発達支援は?

「その頃は気づかなかっただけれど今思えば・・・」。当時を振り返ってやっと言葉にできるようになってから、周囲も気づくことが多いのです。うまくいかないと気づいた頃は、健康を害したり、中退や離職したりなどに陥っていることが多々あります。

自分の人生に納得して自分で気づいて歩いていく力がついていくことが一番。大きな流れに流されるだけではなく、自分のよさを見つめ、人生って面白いと思いつつ、意欲をもって自分らしく歩いていけるようになってほしいものです。

学校や支援者の方には、分岐点にさしかかった時のみではなく、将来の暮らし、学校以外の生活全体に目を向け、本人と向き合っていただくといいと思います。否定して導こうという姿勢では決してなく。

「青年の会」 (高機能自閉症当事者活動)とは

「発達障害のある人たちがもっと暮らしやすく生きやすくなって欲しい」。成人期の発達障害(高機能自閉症、アスペルガー症候群、ADHDなど)の方々に、当事者としての経験や思いを発信し、理解啓発を推進したいとの目的をもつ集団です。

現在10名、就労や障害福祉サービスを利用したりしながら、生活している方々です。アーチル(発達相談支援センター)を事務局として毎月定例会をもちながら活動しています。



- ◆発達障害に向き合って生きる本人たちからのメッセージ 第1号「人生の分岐点、どう歩いていこうか」
- ◆発行：平成23年9月25日 発行
- ◆編集：高機能自閉症当事者活動「青年の会」
- ◆協力：仙台市発達相談支援センター 成人支援係
- ◆事務局：仙台市泉区泉中央2丁目24-1
電話：022-375-0176

編集後記

「そうだったのか・・・」。毎月「青年の会」では、彼らの言葉に気づかされることの連続です。その人生は決して平坦ではなく、学校でも仕事でも、むしろ苦労の連続でした。

必ずしも自分たちの思いを的確に語ることが得意ではないのですが、語り合い、共感し合い、時には趣味や時事問題で盛り上がり、終了後はさらにラーメンをすすりながら・・・と話をつきません。

この通信は、自分たちの活動を「目に見える形にしたい」との願いを受け、本人たちの言葉を拾いながら作ったものです。今後もテーマを設けて発行していきます。

青年の会事務局(アーチル成人支援係)

発達障害に向き合って生きる本人たちからのメッセージ

発達障害と共に生きる本人 家族、学校、支援者の方へ 第1号

人生の分岐点、どう歩いていこうか 進路を選択するときに

人生は選択、自己決定の繰り返しです。義務教育を終えると、進学や就職、どんな生き方をするのかなど、たくさんの「分岐点」に出会います。

発達障害に向き合っている先輩たちは、青年期、さまざまな「分岐点」をどう生きて何を考えていたのでしょうか。

先輩たちからの言葉をヒントにしてみてください。

私は発達障害のある青年です。これまで苦労したことや経験したことをまとめました。もっと私たちが暮らしやすく働きやすい社会になればいいと願って、この通信をかきました。



高機能自閉症当事者活動「青年の会」発行(事務局アーチル成人支援係)

進路選択時

どんなことが問題だった？



小・中学時代

力を出し切れない

▲作文や感想文が苦手な、最初の一文が思いつかないまま1時間が終わっていた。

▲授業を聴くものという意識や関心がなく、寝てばかりいた。

●自分をよく理解し、アドバイスしてくれた先生がいたおかげで学習意欲がわいた。

いじめ・周囲の無理解

▲「わがまま」と言われ、自分が言うことはすべてわがままなのだとはい、何も話せなくなった

▲「やる気がない」と言われたが自分の状況を説明できなかった。

▲授業を聞いていなくても点数がとれたが、カンニングと言われていじめられ、答案を割り引いて書くようになった。

高校・大学時代

得意で力を発揮

●コース制になり、得意科目だけで勝負できたので成績はトップクラス。自分の力が発揮でき自信がついた。

挑戦の機会が少ない

▲配慮されることで逆に挑戦の機会を失った。一度ドロップアウトするとさらに再挑戦の機会が減った。

自分に合った道を考えられない

▲就職に有利だからという理由だけで選択していたが、自分に合っているのか分からなかった。

▲学校は点数さえよければいいという雰囲気、一つの価値観にあおられていた。

入職時期

学校まではよかったが

▲今も何事も積極的に選べない。自分で決めて歩いたつもりがどこにも行っていなかったという思いがある。

学校の学びと仕事がつながらない

▲大学に進学さえすればなんとかなるとひたすらがんばっていたが、大学の勉強と仕事とは結びついていなかった。

障害に気づいて障害者支援を選択

●「こうすれば自分は理解しやすい」と自分の学び方に気づいたのは障害を意識するようになってから。

▲仕事そのものよりも日常の何気ない習慣やマナーが分からない。

▲「こんな当たり前のことがなぜ分からない」と言われても、どうしていいか分からない。

▲職場や仕事に適応できず叱責され、離職。どこも不採用となり仕事が見つからない。

▲職場に障害を伝えても、仕事に合わないからと解雇された。

▲適応障害や抑うつなど精神科通院に頼ることになった。

当事者のあなたへ先輩からのアドバイス

- 困った時のみではなく、専門機関（アーチルなど）に相談し、定期的に将来の進路を相談するといいですよ。
- 学校や家庭に、あなたが信頼できる人が一人でもいるといいですよ。
- 得意なことや楽しんで長く続けたいと思うものがあるといいですよ。
- 苦手なところばかりに着目していませんか？ 自分の得意なところを具体的に相談機関（アーチルや自閉症相談センター）と一緒に整理するといいですよ。
- 自分に合う働き方や職種、職場環境は、就労支援機関と一緒に整理するといいですよ。
- 理解者に自分のことを知ってもらい、確認して認めてもらうといいですよ。

分かって欲しいこと

進路選択時に

発達障害の特性や陥りやすい状況

自分にとって大切なもの、有用な人や情報が見極められない。

置かれている状況を把握しうまく説明できない

何が適しているのか、どんな道がいいのか自分で整理して決められない

できないことを指摘されてもどこを努力していいか分からない

欲しい支援

傷ついてからではなく
特性に合わせて自己選択できていけるように

WHO?

だれに

より自分の力を発揮でき、クリエイティブな方向に引っ張ってくれるペースメーカーがいればいい

WHEN?

いつから

小学校の早い段階から体験を通して学習したい

HOW?

どんな

自分の特性を見極めて道を示して欲しい

仕事をスキルアップできるように支援して欲しい

何度もトライするチャンスと、そのための支援が欲しい。

人間関係をどうコントロールしていけばいいのか支援して欲しい

